

水口町植遺跡が 県指定史跡に

滋賀県屈指の古墳時代の大規模な集落跡で、全国的にも貴重な大型倉庫建物群が発見された植遺跡が、昨年11月に県指定史跡に指定されました。

植遺跡は水口町植地先にあり、平成13・14年度に実施された県営ほ場整備事業に先立つ発掘調査で、古墳時代中期の大型倉庫建物群が発見されて注目を集めました。現在は、遺跡の主要部分が農村公園等として地下に保存されています。

発見された大型倉庫建物群は、当時の一般的な倉庫建物の2〜3倍もの規模を持つ3棟が一行に軒を連ねて建てられていたもので、発掘調査で見つかった柱穴の位置から図のような建物であったと想像できます。

このような倉庫建物は全国で5例しかなく、いずれも大和王権やその傘下の有力豪族が営んだものであることから、植遺跡の倉庫群も、この地域一帯を支配した豪族がその権力と経

問い合わせ

歴史文化財課 埋蔵文化財係

☎06-80026 ☎06-8216

済力、さらには大和王権との関係を誇示した施設であったと考えられています。

植遺跡の近くには豪華な副葬品が出土した泉塚越古墳もあり、大和王権とも関わりを持つ有力な古代豪族の存在と、この地域の重要性をこれらの遺跡は伝えていきます。

今回の指定は、植遺跡が甲賀市だけではなく滋賀県の歴史を考える上で重要であり、古墳時代の地方豪族と大和王権との関係を知る上でも貴重な遺跡として高く評価されたものです。市が誇る歴史資産が、今後は滋賀県の史跡として大切に未来へと継承されることとなりました。



▲植遺跡建物イメージ図
(神保忠宏氏作図)



日頃の生活習慣を 見直し、予防を

介護
予防を
はじめましょう

市では、要支援1から要介護5までの介護認定を受けている方が、2,947人（平成21年3月末時点）おられます。

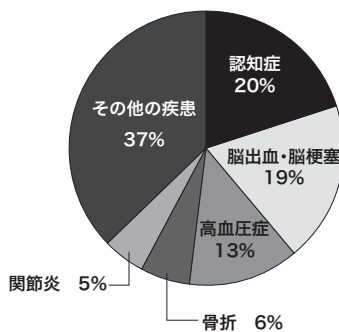
認定を受けられた方の疾病で一番多い病名は認知症です。次いで多いのが、脳梗塞・脳出血等の脳血管疾患で3番目が高血圧症となっています。

脳血管性認知症*や脳梗塞・脳出血、高血圧症の発症は日頃の生活習慣が大きく関係しています。

いつまでも自分らしく元気な暮らしを送るため、適度な運動とバランスの良い食事、積極的に地域の活動や催しなどに参加するなど、日頃の生活習慣を見直し、予防をしていきましょう。

* 脳血管性認知症とは、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、脳の神経細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その結果その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れてしまう認知症です。

認定審査会対象者の主な疾病割合



平成20年度審査案件結果より

要介護(要支援) 認定者数 (2号被保険者も含む)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	292	337	505	481	503	436	393	2,947

平成21年3月末時点 介護保険事業状況報告より

問い合わせ 保健介護課 介護保険担当 ☎ 65-0699-0697 ☎ 63-4085